

看護補助者が働きつづけられる環境の整備 ―補助者への教育に焦点をあてた取組―

公立大学法人福島県立医科大学付属病院 今野 静

【背景】

当院は許可病床 778 床、30 診療科、19 部門の中央診療施設を有する特定機能病院であり、県内唯一の大学附属病院である。平成 22 年度のデータでは 1 日平均入院患者数 632 人、1 日平均外来患者数 1,376 人、病床利用率 84.6%、平均在院日数 17.3 日である。7 対 1 看護配置、看護補助者配置は見なし看護補助者を含めた 75 対 1 となっている。

看護師の業務軽減と 50 対 1 配置を目指し、看護補助者増員のため臨時職員として積極的に採用している。しかし平成 23 年度 4 月から採用された看護補助者の離職は高く定着しない現状である。そのため看護補助者の配置は、見なし看護補助者を含めた 75 対 1 配置のままとなっている。中途退職する補助者のほとんどは病院の環境や看護補助業務に適応できないことが理由となっている。その要因としてひとつは、採用時のオリエンテーションの問題、二つ目に安全管理・感染管理についての集合教育にとどまり、補助者教育は各部署に任せていることでの教育のばらつきがあるためではないかと考えた。そこで補助者が働き続けられる環境を整えることを教育の視点から考え、教育担当副部長として教育企画委員会・教育委員会の委員と看護補助者の教育に取り組んだ。

【実践計画】

目標を①補助者への移乗・移送の研修の実施 ②補助者の研修計画の提示 ③オリエンテーション要項の作成 ④看護補助者業務手順の作成 ⑤看護補助者 50 対 1 配置 とし計画した。

- 6 月 看護補助者教育の必要性、技術の研修の必要性を教育委員会で説明
移乗・移送の指導案作成（教育委員）
看護補助者業務の統一について検討（看護提供委員会）
- 7 月 移乗・移送についての看護補助者研修の実施および評価（教育委員）
- 10 月 看護補助者へのアンケート作成
- 11 月 アンケート調査・分析
オリエンテーション内容検討
- 12 月 名古屋市立大学病院見学
平成 24 年度看護補助者研修内容検討（教育企画委員）
- 2 月 平成 24 年度研修内容の決定と報告
オリエンテーション要項完成

【結果】

研修の必要性を教育委員へ説明した。教育委員が中心となり移乗・移送の指導案を作成し、業務時間内の時間帯で病棟業務への支障とならない 16 時 30 分から 17 時の 45 分間の研修時間でデモンストラーションを主とした研修を 7 月に実施した。内容について安全面で問題がないか安全管理部と連携をとった。技術に関する初めての研修であったため看護補助者からは良い評価を得た。しかし研修方法として演習の必要性やそのための時間確保が評価としてあげられた。そのため管理室内で研修時間の確保について検討した。

研修を行う中で、看護補助者の移送・移乗実施基準の必要性について教育委員から提案され、教育委

員が中心となり基準案を作成した。基準案は安全管理部へ問題がないか確認を依頼し、看護師長会で承認を得た。その基準を含めた移送・移乗に関する指導案の改訂と移送・移乗の手順を作成した。その他の看護補助者の業務手順の作成は、看護提供委員会に依頼した。

看護補助者間の関係に問題が生じていたこと、効率的業務が行われていないことが問題となり「看護助手会」を11月から開催した。そこで看護補助者増員の目的や看護補助者の連携の必要性の説明を行うと共に、看護補助者の交流の場とした。しかし、看護補助者同士の交流や意見交換はされず活発な助手会とはならなかった。運営方法等の検討が反省点としてあげられた。

効率的な補助者の活用については看護補助者間の連携、看護師と補助者間の連携について看護師長会で検討した。その結果、看護師と補助者間での朝のミーティングの実施やフロア間での補助者の話し合いを行う部署も出てきた。

11月アンケート調査を全看護補助者に実施した。調査からは、採用時の戸惑い、接遇・マナーの問題、看護師・看護補助者間のコミュニケーションや連携の必要性、研修内容についての要望を把握することができた。アンケートの結果をオリエンテーション内容や研修内容に反映させ検討した。

オリエンテーションについては看護部管理室内で検討し、オリエンテーションは1日の時間を設け、病院の概要、業務内容、接遇、日常的に行われている車いすによる移送技術演習を入れた内容とした。演習は教育委員に依頼することとした。

研修内容については、日本看護協会が提示する基本的な考え方を参考にし、教育企画委員会で検討した。今まで実施されてきた医療安全や感染管理の内容に加え、看護部の概要や目標、看護補助者業務、接遇、5S活動の内容を講義形式とした。さらに日常的に行われる移乗・移送技術の演習を加え、さらに補助者間のコミュニケーションや話し合う機会を作るグループワークの形態を組み込んだ研修内容とした。

看護師長会での承認を得て、平成24年度4月からの実施とした。

【評価及び今後の課題】

教育委員へ看護補助者の活用の意義、教育研修の必要性を説明することで、協力を得られ研修を実施することができた。研修の実施や看護補助者の移送・移乗実施基準の作成により、看護補助者からは良い評価を得ることができた。教育委員が研修を実施することで看護補助者が行う移送の基準作成の必要性の提案があり教育委員を中心として作成できたことは大きな成果であった。

看護補助者は日常の業務中での人間関係等に戸惑いを感じていることがアンケート調査から分かった。今後オリエンテーション要項や補助者研修計画に沿って実施していくこと、また看護部の集合研修と共に、各部署での教育を含めた補助者への支援方法が必要と考える。看護職員に補助者教育・支援の重要性を認識してもらうための説明の機会を設け、日常的な支援ができるよう補助者支援ワーキンググループの立ち上げ、「助手会」の運営や継続的な教育体制作りや支援方法の検討が今後の課題としてあげられる。